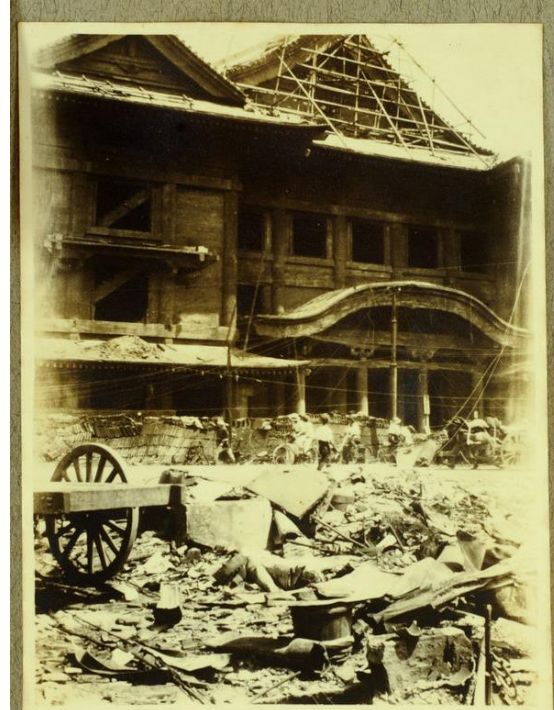


関東大震災関連の写真



貼紙ニ亮マサレナル楠公銅像



歌舞伎座



戒嚴司令部

1923年（大正12）「（関東大震災写真）」

加藤竹雄家文書（当館蔵）[デジタルアーカイブへ](#)

解説

1923年（大正12）9月1日午前11時58分、関東一帯にマグニチュード7.9の大地震が起こりました（**関東大震災**）。被害は東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・静岡・山梨の1都6県に及びましたが、特に東京の被害が大きく、神田・日本橋から浅草・本所・深川の下町一帯は壊滅状態になりました。地震そのものだけでなく、火災による被害も甚大でした。両国の横網町の陸軍被服廠跡の空き地では、家財とともに避難していた約3万8000人が、火災に巻き込まれ焼死しています。

被災の実数は、『東京府史』によると罹災者総数34万4615人、死者9万1324人、行方不明1万3275人、負傷者5万2101人、全焼家屋38万2090戸となっています。

その後、流言をきっかけにした朝鮮人・中国人の虐殺・迫害や社会運動家の虐殺（**亀戸事件**・**甘粕事件**）を招くなど、自然災害をきっかけに人為的な殺傷行為も大規模に誘発しています。

福井とのかかわり／資料の注目ポイント

資料は加藤竹雄家文書に残る、関東大震災の惨状を物語る写真です。貼り紙でいっぱいになってしまった楠木正成像や、**戒嚴司令部**の様子など当時の世情を物語っています。

震災後の「福井新聞」には、救援物資として木炭や米を被災地に発送したことや義捐金募集の記事などが掲載されています。同時に震災を逃れて福井に帰ってきた人たちの特集記事もあり、「地震火事よりも怖い 乱暴鮮人は処分される」、「竹槍で乱暴鮮人と闘ったと云ふ男勝りな女も帰ってきた」という記事もあり、朝鮮人・中国人への間違った認識が全国に波及していた様子が読み取れます。

関連資料

名称	概要	備考
「(関東大震災写真)」	加藤竹雄家文書（当館蔵） A0052-01409	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-307131-1-p1
1923年（大正12）9月、関東大震災後の福井新聞	関東大震災の惨状や朝鮮人・中国人に対する認識に関わる記事あり	当館、新聞複製本にて閲覧可能

参考文献

- ・『国史大辞典』 吉川弘文館
- ・『日本史（A B 共通） 教授資料 研究編』 山川出版社